

ぐんまで頑張る職業人の熱意をレポート!

# 柴崎龍吾の課外授業

Vol.37

うすい学園代表取締役の柴崎龍吾が街に飛び出して、元気に働く人にインタビュー。子どもたちのために、職業の多様性や働くことの意味を毎号レポートしていきます!



エフエム群馬にてインタビュー内容を放送中! 毎週月曜 ワイド番組「ユウガチャ!」内 16:41頃~



うすい学園代表取締役 柴崎龍吾  
大学在学中に劇団を主宰し、卒業後は放送作家として活動。1975年に個人塾「横川学習塾」を開校し、以降、うすい学園を展開。子育てや教育に関する著書多数、ラジオ番組出演中。

今月の職業人

株式会社美喜仁 代表取締役 坂入勝さん



▲今年で59歳になる坂入社長。今の若い人への期待を聞くと、「目標を持って、自分自身に投資してほしいですね」と話す  
◀美喜仁という屋号は、昭和29年にマージナル諸島のビキニ環礁で行われた米国の水爆実験により、マグロ漁船第五福竜丸が被ばくしたことに由来。「当時、マグロは放射能汚染の風評被害を受けましたが、反骨心からそれを逆手に取り、父親がつけました」と坂入さんは笑う

## 波乱万丈を経ても揺るがない 多くの客に喜んで欲しいという思い

柴崎 今回は桐生、太田、高崎で海鮮ダイニング美喜仁館など、多数の飲食店を展開している、株式会社美喜仁の坂入勝社長にお話を伺います。坂入社長は何代目になるのでしょうか?

坂入 私で2代目です。もともと、実家が桐生市で美喜仁という寿司店を経営していました。私は大学を卒業後に稼業へ入りました。

柴崎 やはり、当初から稼業を継ぐつもりだったのでしょうか?

坂入 実は稼業はまったく考えておらず、プロ野球選手を目指していました。けれど、早くに結婚したものですから、夢を追いかけてばかりはいられません。家族を養うために稼業に入ったのです。

柴崎 実家は老舗のお寿司屋さんです。坂入さんも修行を積んだ後、順風満帆に会社を継いだのですか?

坂入 それが、決して順風ではありませんでした。実家は確かに老舗ですが、2店舗を持つ小さな家族経営の企業でした。私は専務になって初めて、会社の資金がうまく回っていないことを知りました。その後も売上が伸び悩むなか、いよいよ経営が行き詰った状態で会社を引き継いだんです。2007年ですね。

柴崎 意外なお話ですね。どうやって立て直したのでしょうか。

坂入 本質の味わいをお値打ちに提供したい。これが創業以来の思いです。ちょうど、地元の鮮魚店を買収して築地市場か

ら直接買入入れるルートができたので、品質の良いものをリーズナブルにご提供できる環境は整いました。次は業態です。東京では回転寿司がブームだったので、当時、先端地と言われていた金沢市でお店を見て回り、タッチパネル式のセルフオーダーで個室のお店を作ろうと思いついたのです。それが海鮮ダイニング美喜仁館です。回転寿司ではありませんが、これがお客様の支持をいただきました。

柴崎 なぜ個室でセルフオーダーシステムなのですか。

坂入 カウンターの寿司店って、板前さんに気を使いませんか? 私は、お客様に余計な気を使わせたくなかった。くつろいで食事を楽しんでほしいんです。

柴崎 なるほど、面白い考え方ですね。美喜仁さんでは社会貢献活動にも積極的で、昨年は美喜仁館高崎店で自然感動体験イベントを開催なさっています。これはどういう催しだったのでしょうか?

坂入 従来から高齢者施設などへ慰問し、寿司を握る活動はしていました。でも近年は食品ロスなども大きな問題になっています。そこで、子どもたちに食べ物の大切さを伝えたくて、昨年、マグロを解体する様子や、寿司を握ってもらう体験を提供しました。食べ物には、口にするまでものすごく手間がかかっていること、だからこそ残さず食べて欲しいという願いを込めました。今年も11月に開催する予定ですので、お子様のいるご家庭は、ぜひ参加なさってください。

柴崎 顧客満足度の向上と同時に、従業員満足度のアップのために勤務ローテーション制に積極的に取り組んでいる姿勢には、時代を先取りしようとする気概を感じました。それではまた次回をお楽しみに。

